

◆ 今週のコメント

- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(男性, 70歳代)あります。症状は、発熱・腹痛・下痢・意識障害・肺炎です。低血糖発作の記載もありますが、因果関係についての詳細は不明です。推定感染地域は国内、推定感染経路は水系感染です。今回の報告により、本年の累積報告数は9例です。
- アメーバ赤痢の報告が1例(男性, 40歳代)あります。症状は、粘血便・便潜血陽性で、推定感染地域は国外(グアム)、推定感染経路は経口感染です。本年の累積報告数は15例です。
- 梅毒の報告が1例(男性, 20歳代)あります。症状は、梅毒性バラ疹で、推定感染地域は国内、推定感染経路は性的接触(同性間)です。本年の累積報告数は5例です。
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2.31(90例)で、第37週から連続して、増加しています。例年、冬季に報告数が多くなりますので、動向に御注意ください。
- 水痘の定点当たり報告数は0.54(21例)で、前週(0.26)に比べ増加しています。年齢階級別では、2歳が5例(23.8%)で最も多く、次いで、1歳及び5歳が各4例(19.0%)となっており、1歳～5歳で85.7%を占めています。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の報告が6例あります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 9例】
- 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 15例】
- 五類:梅毒(早期顕症・Ⅱ期), 1例(第36週分)【1月以降の累積報告数 5例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.31	90
	② 手足口病	1.18	46
	③ 水痘	0.54	21
	④ 突発性発しん	0.33	13
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.31	12
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

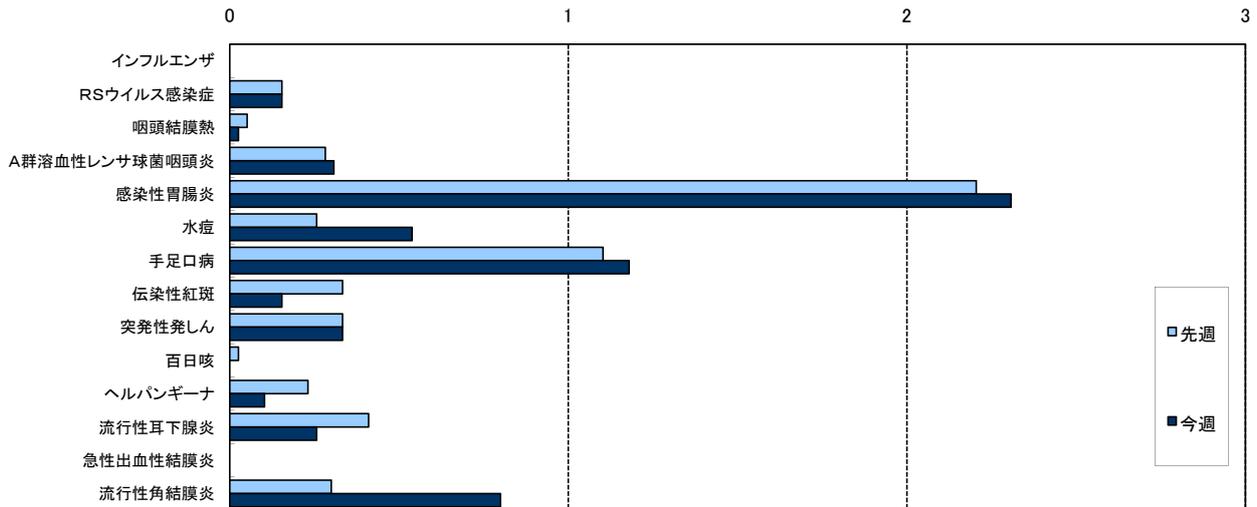
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

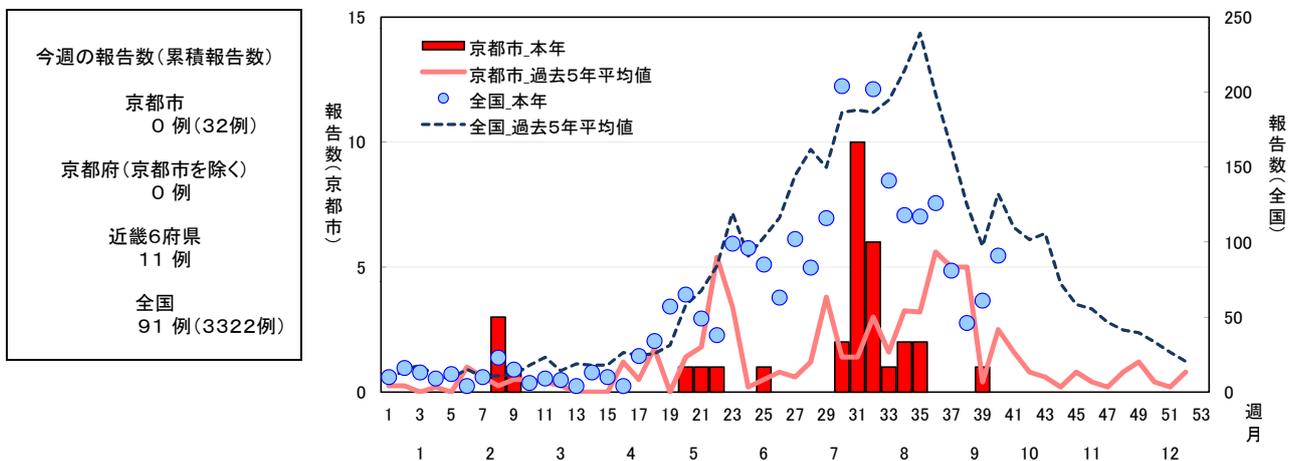
(注)京都市のデータは、平成23年10月13日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第40週)と先週(第39週)の定点当たり報告数の比較

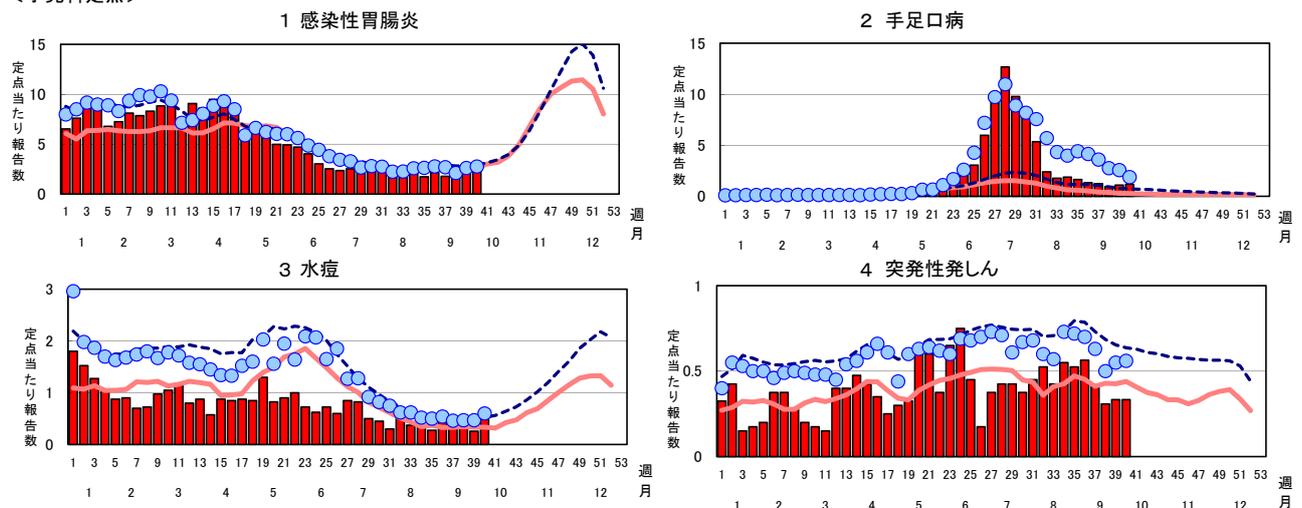


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

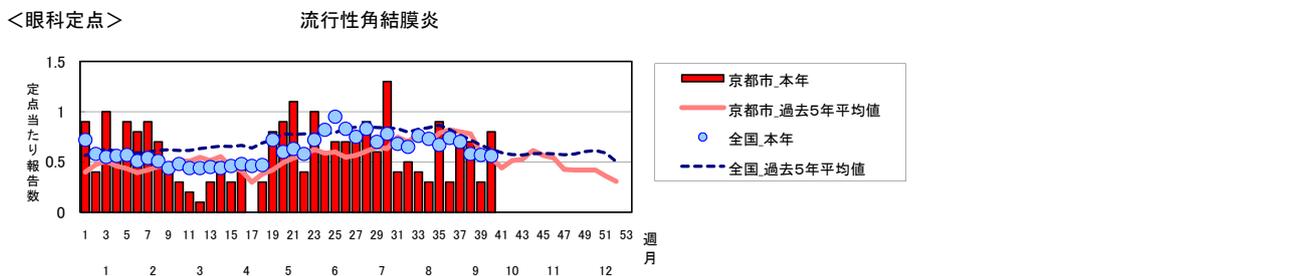


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第40週(10月3日～10月9日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の報告が6例あります。例年は秋から冬にかけて流行し、夏季にはほとんど報告がありませんでした。本年は、第27週(7月4日～7月10日)以降連続して報告があります。全国でも報告数が増加しており、今後の動向に注意が必要です。

平成16年以降の報告数の推移をみると、年ごとに報告数が増加する傾向にあります。

本市における平成16年以降のシーズン(25週(6月)～24週(5月))別年齢階級別割合の推移をみると、1歳以下が平成16年から平成17年シーズンは94.9%でしたが、平成23年第25週から第40週は75.5%となっています。

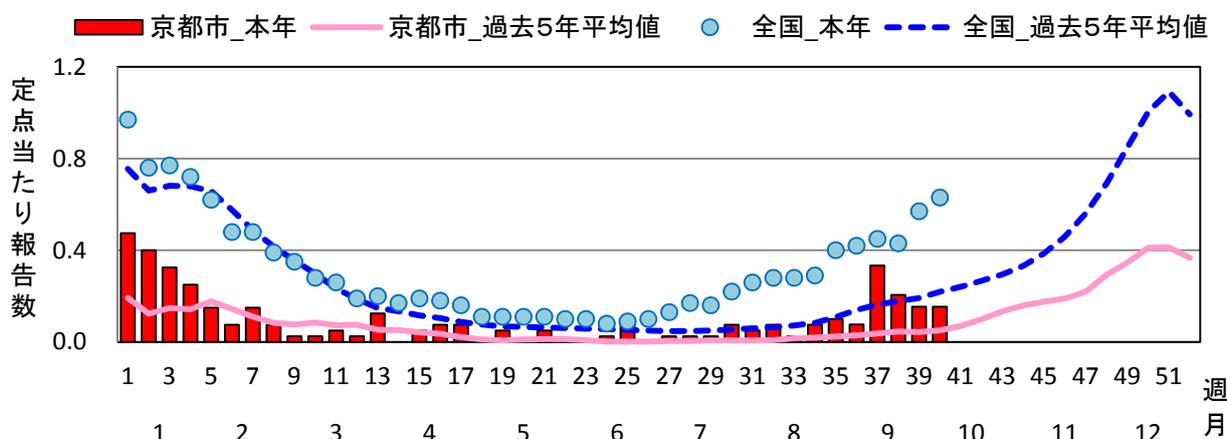
京都市衛生環境研究所において病原体定点からの検体を検査した結果、RSウイルスは、5月から7月の間は分離されていませんでした。しかし、8月にはかぜ症候群、9月はRSウイルス感染症の診断症例から、それぞれ1件分離されています。

京都市衛生環境研究所ホームページに、RSウイルス感染症についての情報を掲載しています。

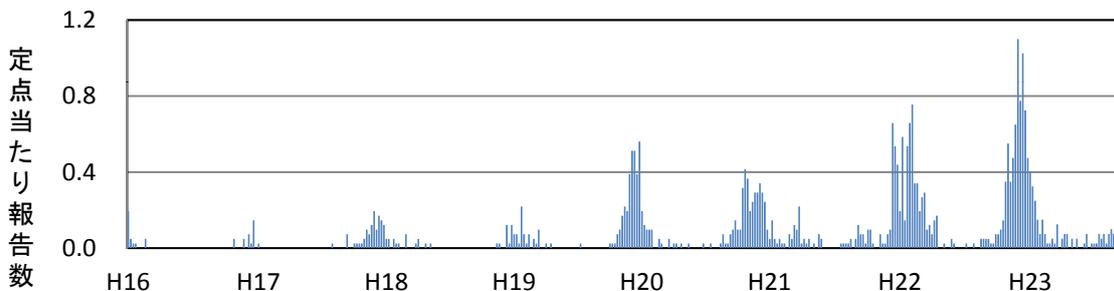
微生物部門ホームページ RSウイルス感染症について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000076939.html>

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の平成16年以降の報告数の推移



本市の平成16年以降のシーズン(25週(6月)～24週(5月))別年齢階級別割合の推移

